

日本・中国・アセアン・インドの9カ国調査 第3回「グローバル定点2025」実施

9カ国比較で特徴的な項目例は…

日本「安定した仕事・職場に満足」(25.6% 9位、23年から4.3pt増)

中国「夢が欲しい」(24.1% 1位、23年から3.9pt増)

タイ「家事や仕事などを夫婦で平等に分担」(71.7% 1位、23年から4.1pt増)

インド「買い物にける時間を増やしたい」(40.1% 1位)

博報堂生活総合研究所は、博報堂生活総研・上海、博報堂生活総合研究所アセアンと協働し、日本と海外の生活者のライフスタイルや行動を把握することを目的として、2023年から毎年、「グローバル定点」を実施しています。最新の第3回は、これまでの日本・中国・アセアン各国にインドを加えた9カ国で調査しました。(15～59歳の男女 13,000人を対象とするインターネット調査。調査概要は11ページ)
本資料では、各拠点の研究員が注目した、各国における特徴的な項目(9カ国のなかで最上位/最下位となったデータや、各国で増加/減少するデータなど)を考察とともにご紹介します。

9カ国比較 各国における特徴的な項目例

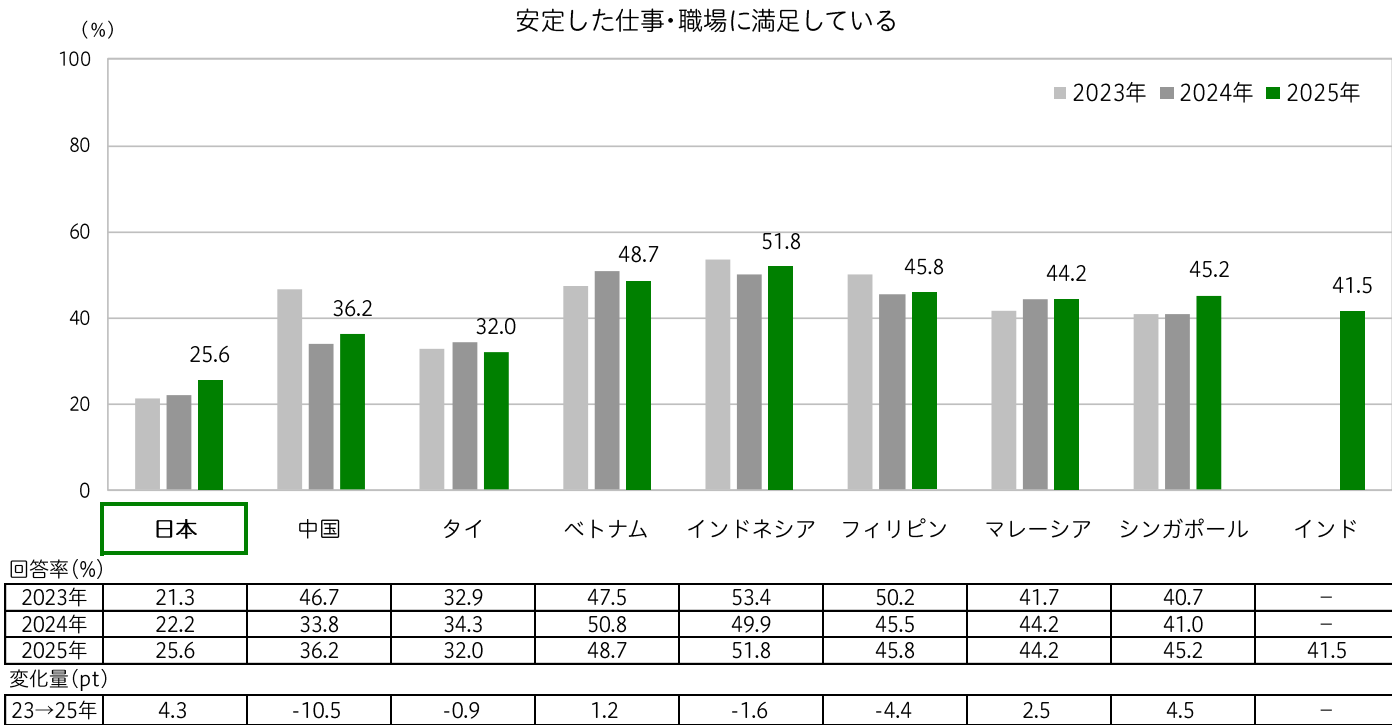
		2025年の回答率 (9カ国中の順位)	23→25年 変化量
	[日本]		
	■安定した仕事・職場に満足している	25.6% (9位)	4.3pt増
	徐々に満足度が高まっているのは、働き方改革に取り組む組織が増えてきているからだと思われます。		
	[中国]		
	■夢が欲しい	24.1% (1位)	3.9pt増
	これからの「人生進路」を積極的に探している生活者の意識がうかがえます。		
	[タイ]		
	■家事や仕事などを夫婦で平等に分担している(既婚者のみ回答)	71.7% (1位)	4.1pt増
	親と同居する世帯が多く、子どもを親にまかせて働きに出る夫婦が一般的です。		
	[ベトナム]		
	■能力主義は合理的な制度だと思う	42.3% (1位)	5.2pt増
	「明日は今日より良くなる」と誰もが信じているため、必死に働いたり、勉強したりしていると思われます。		
	[インドネシア]		
	■仕事や勉強をする時間を増やしたい	58.9% (1位)	5.7pt増
	人口が増え続け、経済も成長しているため、他の人に引けを取らないように、という意欲が沸いているのかもしれない。		
	[フィリピン]		
	■海外で働くことに抵抗はない	50.1% (1位)	5.7pt増
	経済的な要因と英語を話せる国民が多いこともあり、海外に出稼ぎに行く人も少なくありません。		
	[マレーシア]		
	■ちょっとした体調の変化も気になる方だ	30.5% (1位)	6.2pt増
	家庭訪問調査に行くと、健康食品やエクササイズ器具があるご家庭が多いことも印象的です。		
	[シンガポール]		
	■カードローンを利用している	17.1% (4位)	8.2pt増
	元々、生活費が高い上に、最近の世界情勢を影響を受け、さらに物価が上昇しているからかもしれません。		
	[インド]		
	■買い物にける時間を増やしたい	40.1% (1位)	— (変化量が9カ国中最大)
	近年の著しい経済発展を背景に、より物質的な豊かさを求める傾向が出ています。		

■安定した仕事・職場に満足している

日本の研究員
のコメント



日本は25.6%で最下位、23年からの変化量は4.3pt増でした。9カ国のなかでは「安定した仕事・職場に満足している」が少ないのは、労働環境が良くないと思う生活者が日本は他国に比べて多かったからでしょう。それでも徐々に満足度が高まっているのは、日本の労働環境が流動化するなか、リモートワークやフレックス制の導入、デジタル化による業務効率の改善、長時間労働の是正、副業解禁、ハラスメント対策などの働き方改革に取り組む組織が増えてきているからだと思われます。

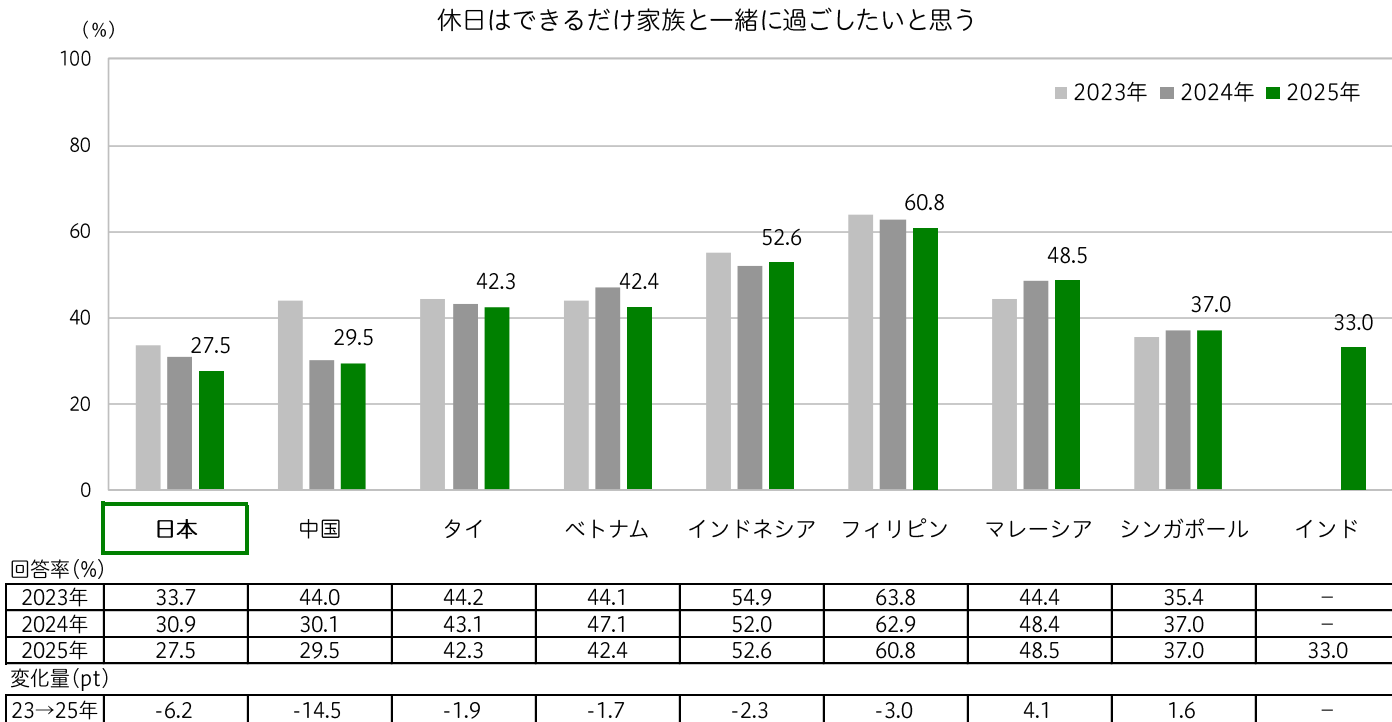


■休日はできるだけ家族と一緒に過ごしたいと思う

日本の研究員
のコメント



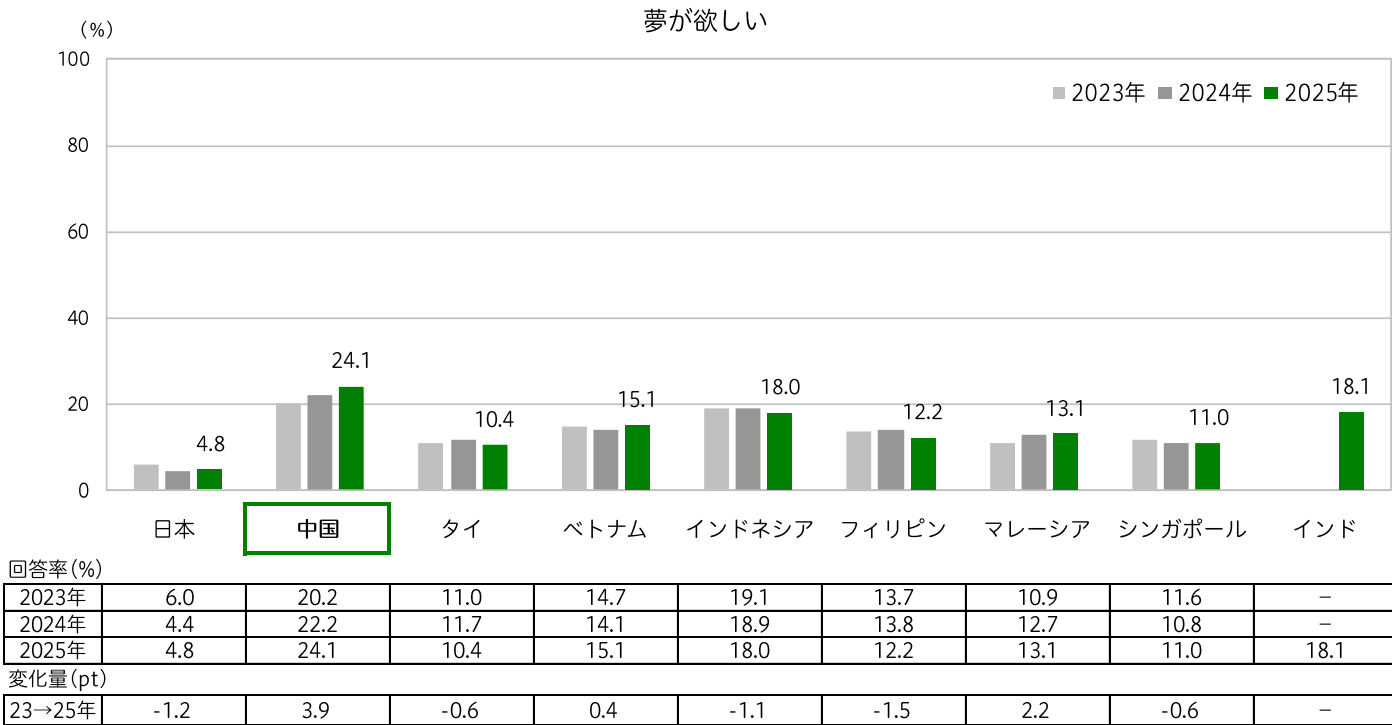
日本は27.5%で最下位、23年からの変化量は6.2pt減でした。また、日本は「親しい友人と過ごす時間を増やしたい」も21.2%で最下位、23年からの変化量は3.0pt減となっており、家族や友人と過ごすよりもひとりの時間を重視するようになってきています。こうした意識変化の要因としては、共働きが増え、家族が個別に動くようになったことや、デジタル化で人と常時接続するようになったことへの反動などが影響していそうです。



夢が欲しい

中国の研究員のコメント

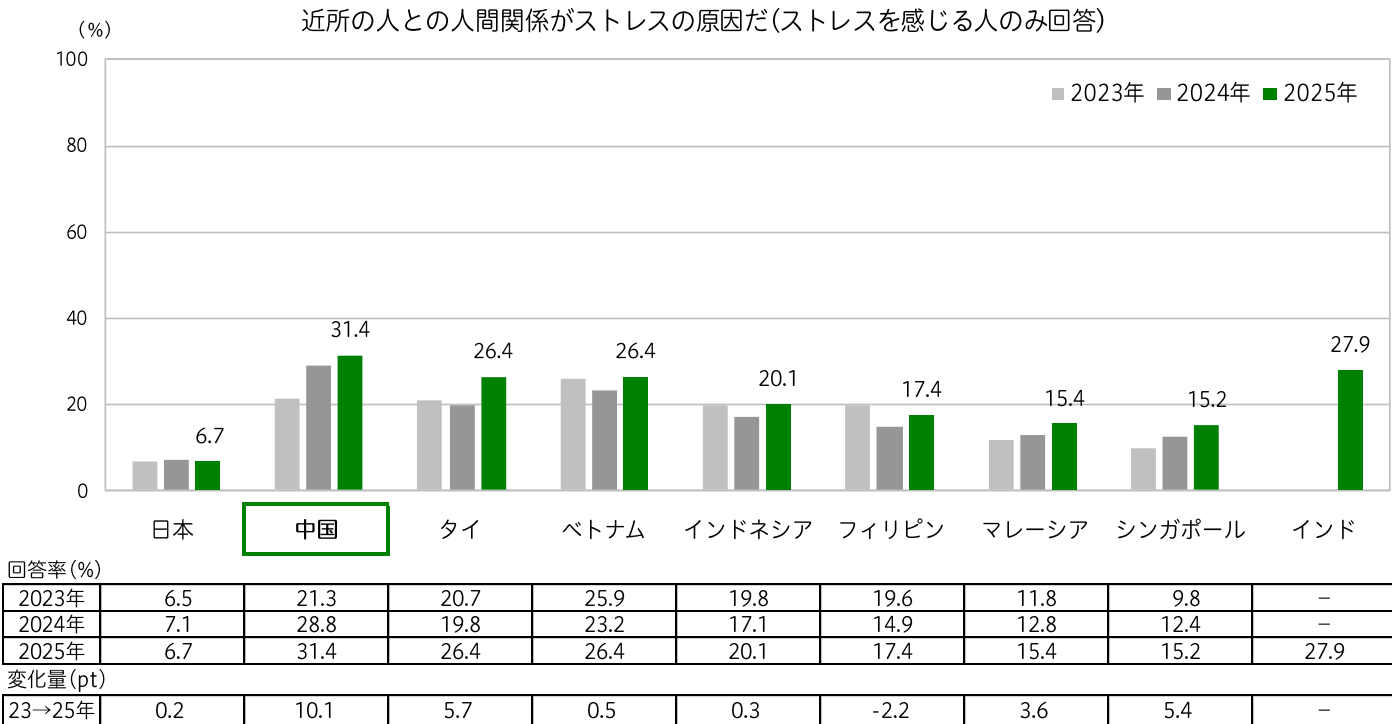
中国は24.1%で最上位、23年からの変化量も3.9pt増で最大でした。これまで仕事、金銭面における成功を中心に求めてきたけれど、経済成長の鈍化により、生活に停滞を感じ、ストレスを感じる人が増えています。その一方で、仕事終わりに料理や音楽、ダンスなどを学べる大人向けの夜間趣味教室、自宅でbarとして開放し、SNSを通じてそこに集まる人同士が価値観や趣味で交流するHome barなどが流行っており、ストレスを発散しながら、これからの「人生進路」を積極的に探している生活者の意識がうかがえます。



近所の人との人間関係がストレスの原因だ(ストレスを感じる人のみ回答)

中国の研究員のコメント

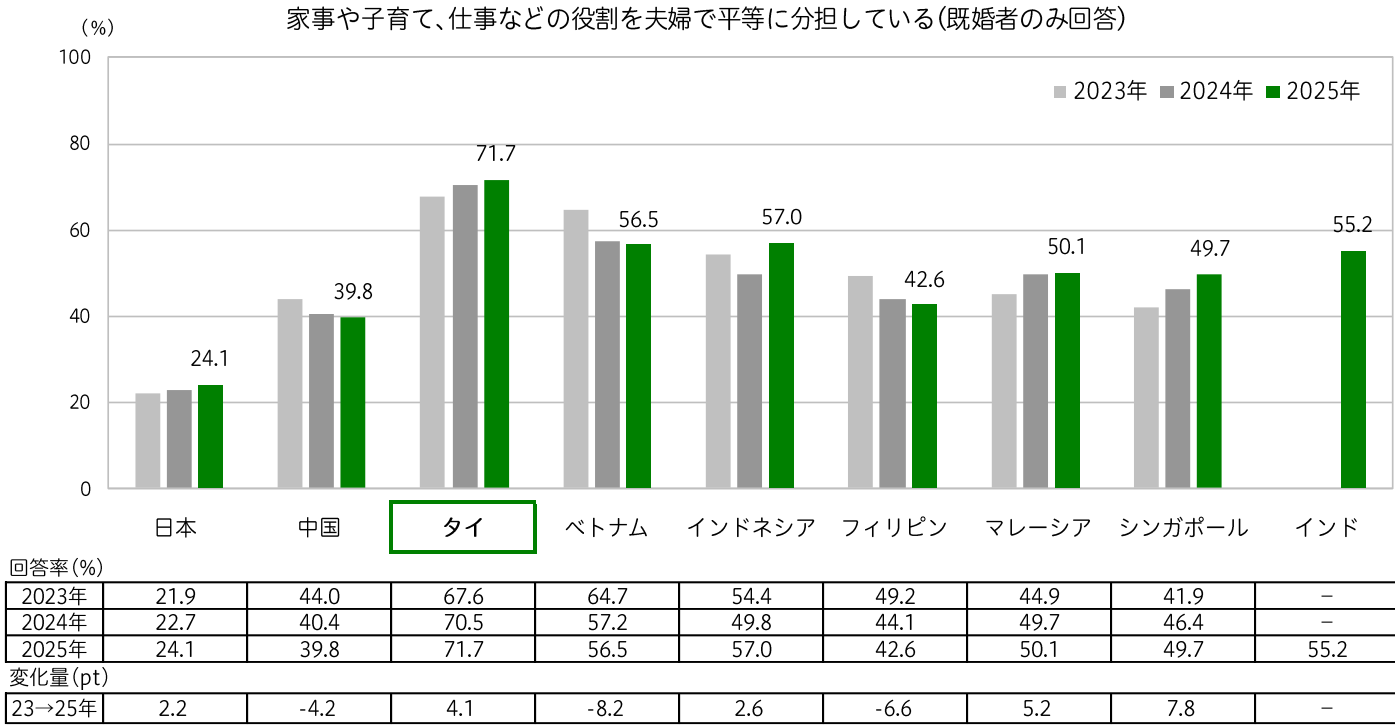
中国は31.4%で最上位、23年からの変化量も10.1pt増で最大でした。近年、団地ごとのコミュニティチャット/グループチャットが普及し、従来に比べて近隣住民との結びつきが強まりました。チャットを通じた育児用品や書籍などのリユース品の交換や、生活情報の共有が日常化する一方、近隣の可視化によって、雑音やペットなどの揉め事に関する会話も増加し、コミュニティの密接化に伴うジレンマが浮き彫りになっているようです。



家事や子育て、仕事などの役割を夫婦で平等に分担している(既婚者のみ回答)

アセアンの研究員
のコメント

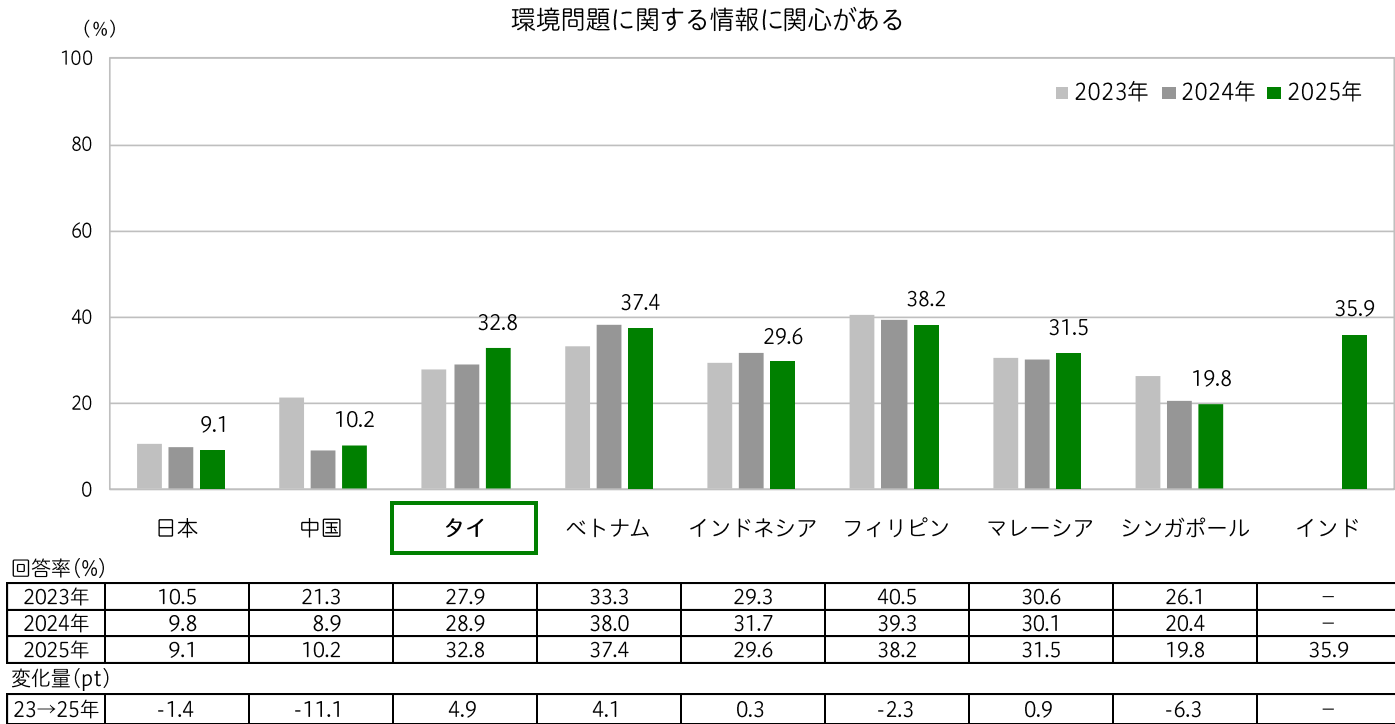
タイは71.7%で最上位、23年からの変化量は4.1pt増でした。世界経済フォーラム(WEF)による2024年ジェンダー・ギャップ指数ランキング([Global Gender Gap Report 2024 | 世界経済フォーラム](#))では、タイ65位、日本118位となっており、それは生活者も実感するところだという結果になりました。例えば、タイの広告会社は女性社員の方が圧倒的に多いですし、女性がリーダーの組織はどの会社でも普通。会社では「女性だから」という理由で不利になることは、ほとんどありません。また、タイでは親と同居する世帯が多く、子どもが生まれても育休は3ヶ月、子どもを親にまかせて働きに出る夫婦が一般的です。お手伝いさん、子守りという人的リソースの確保もしやすく、食事は外食や中食が多いことも男女関係なく、内外で働ける理由なのだと考えられます。



環境問題に関する情報に関心がある

アセアンの研究員
のコメント

タイは32.8%で4位、23年からの変化量は減少/横ばいの国が目立つなか、4.9pt増でした。タイでは、最近PM2.5による大気汚染が深刻な環境問題のひとつとなっていたり、猛暑の影響で暑いことに慣れているはずのタイ人の間でも熱中症の発症者が増えていきます。特に、これらによる影響を強く受けているのは子どもたちです。大気汚染指数や太陽光指数を毎日計測し、一定の指数を超えたら「屋外での活動を禁止」とする学校も多く、子どもたちの健やかな成長を環境問題が阻害している現状と、未来への影響を懸念する声が多く挙げられています。



■能力主義は合理的な制度だと思う

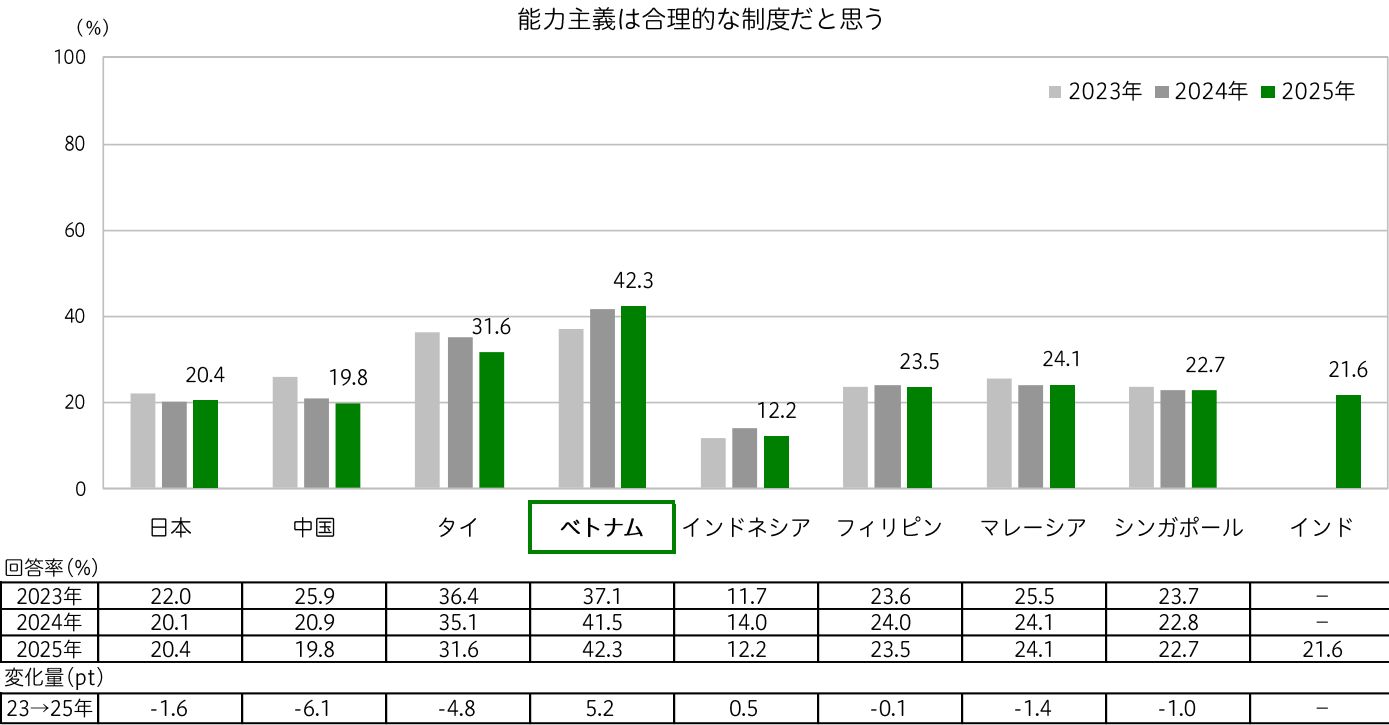
アセアンの研究員のコメント

ベトナムは42.3%で最上位、23年からの変化量は減少/横ばいの国が目立つなか、5.2pt増でした。現在のベトナムは日本の高度成長期のような熱気と活気を帯びていて、「明日は今日より良くなる」と誰もが信じているため、必死に働いたり、勉強したりしていると思われま

ベトナムの生活者に接していると、たくさん稼ぐ、会社で良いポジションに就く、家族の世話をする……これらをすべて全力でやる

ことが求められているよう

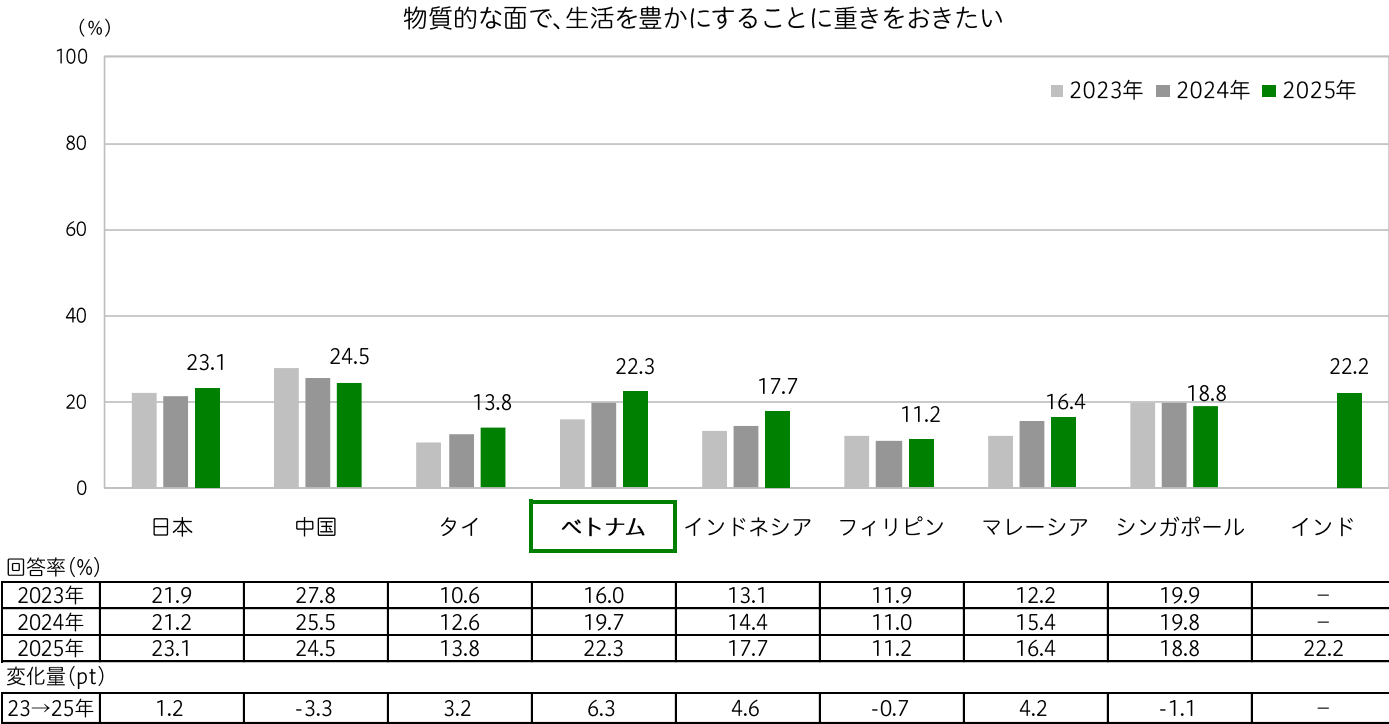
ですし、生活者自身も「達成すべきこと」として受け入れているようです。



■物質的な面で、生活を豊かにすることに重きをおきたい

アセアンの研究員のコメント

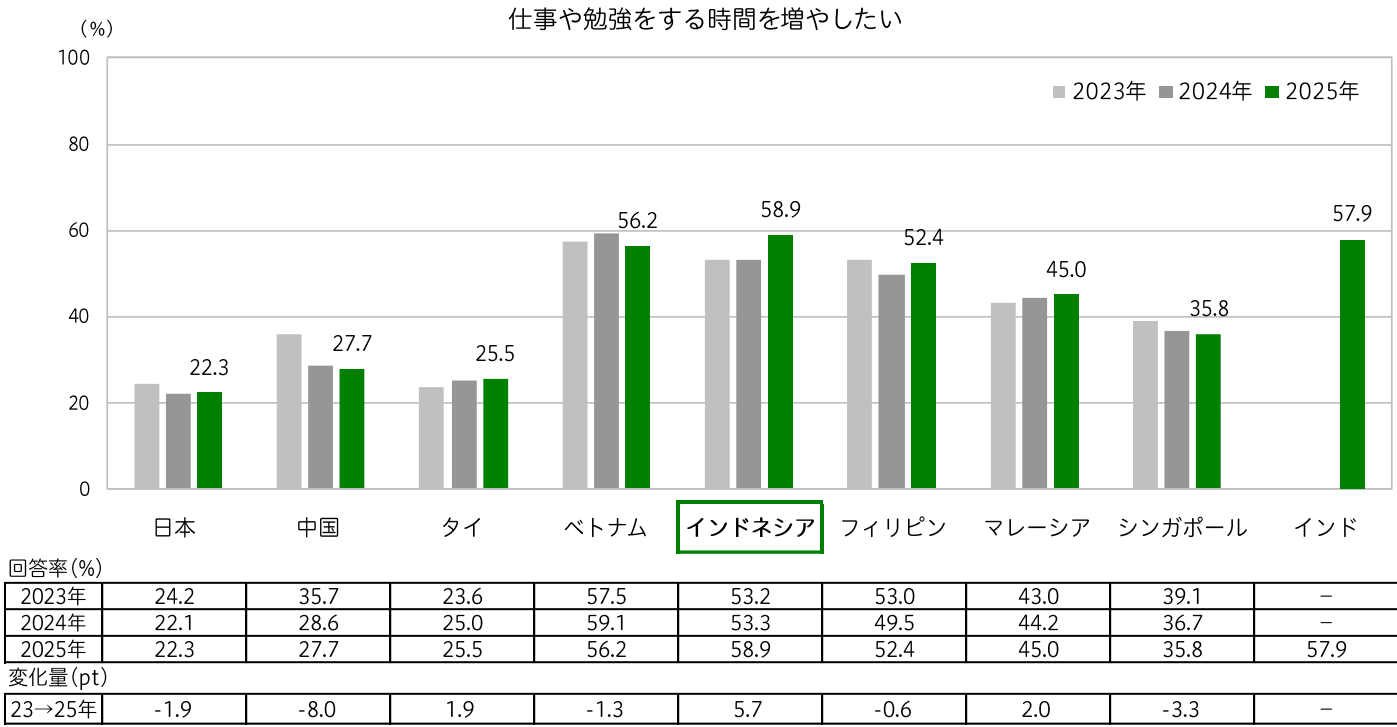
ベトナムは22.3%で3位、23年からの変化量は6.3pt増で最大でした。前述したように能力主義を支持する人が増えたり、「心の豊かさやゆとりのある生活」よりも「物質的な面で、生活を豊かにすること」を求める人が増えていることは、ベトナムの生活者の「叶えたい姿」を反映していると考えられます。



■仕事や勉強をする時間を増やしたい

アセアンの研究員
のコメント

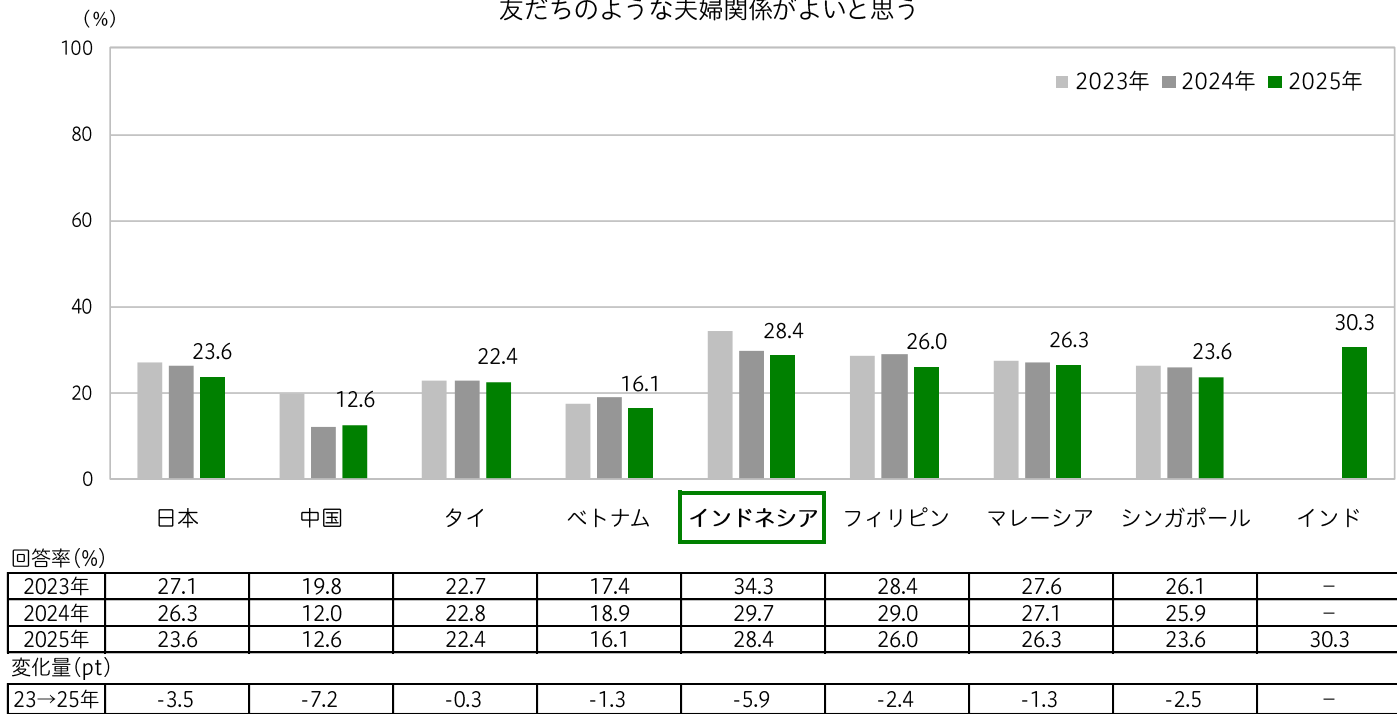
インドネシアは58.9%で最上位、23年からの変化量は減少/微増の国が目立つなか、5.7pt増でした。調査を行ったジャカルタエリアは、インドネシアの様々な島・地域から多くの人がやってきて切磋琢磨しています。そのため、地方からジャカルタにやって来た人は、ジャカルタの時間の流れのスピード、人びとの行動の速さに驚くそうです。人口も増え続け、経済も成長しているため、他の人に引けを取らないように、もっと働かねば、もっと勉強がしたい、という意欲が沸いている生活者が増えているのかもしれない。



■友だちのような夫婦関係がよいと思う

アセアンの研究員
のコメント

インドネシアは28.4%で2位、23年からの変化量は5.9pt減で他国より減少幅は大きめになっています(中国が7.2pt減ですが、23年は参考値。24年から25年は0.6pt増となっています)。インドネシアでは宗教的な教えから、家庭内で父・母(夫・妻)が果たすべき役割が決まっており、それぞれをまっとうすることで家族が繁栄するという考えが強い傾向がみられます。友だちのような夫婦関係よりも、夫婦の役割の違いを尊敬しあうことで、良い家庭を作っていきたいという生活者の願いが、このデータの動きに表れていると見立てました。



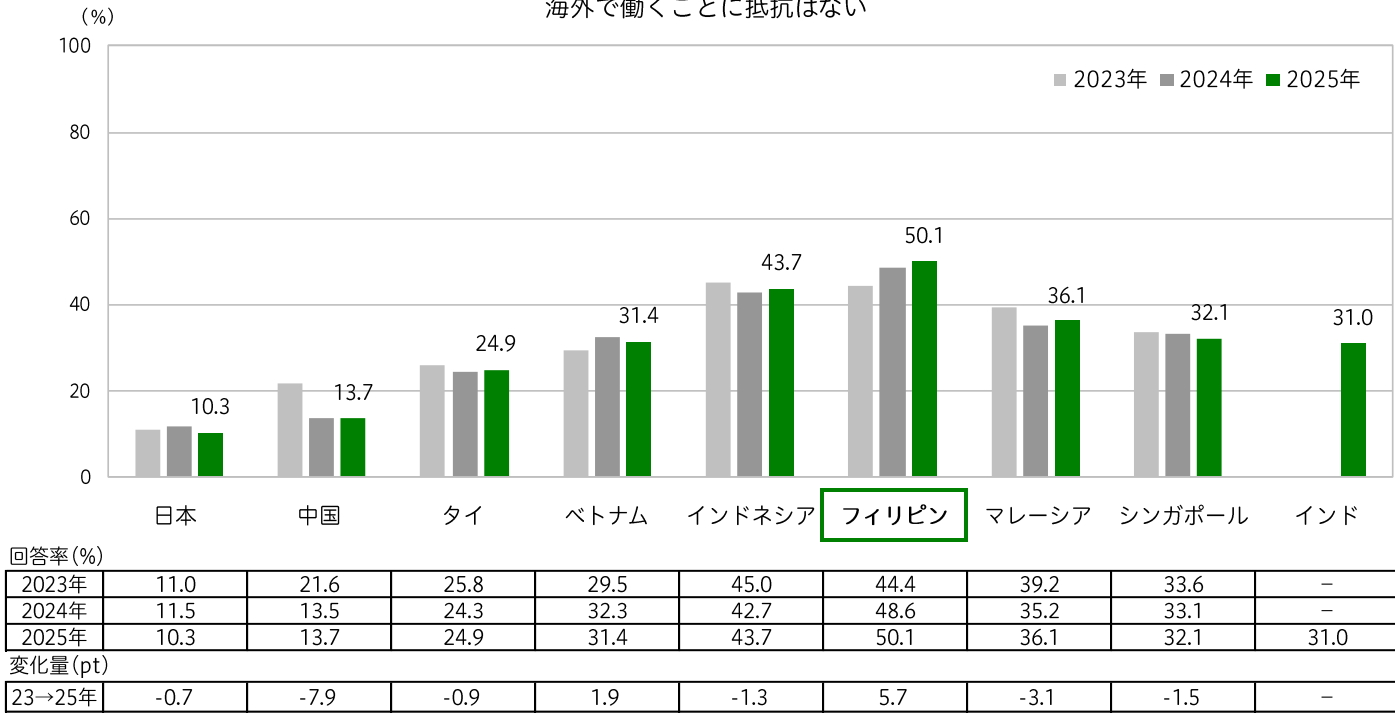


海外で働くことに抵抗はない

アセアンの研究員 フィリピンは50.1%で最上位、23年からの変化量は減少/横ばいの国が目立つなか、5.7pt増でした。フィリピンは経済的な要因と英語を話せる国民が多いこともあり、海外に出稼ぎに行く人も少なくありません。そのため「海外で働くこと」に対する抵抗感が低いのだと思われます。最近では、オンライン英会話の講師や、海外にあるレストランのオンライン接客(受付やブッキング)など、語学力を活かせるオンライン系ビジネスに従事するフィリピンの生活者も増えているようです。



海外で働くことに抵抗はない



若さが欲しい

アセアンの研究員 フィリピンは7.3%で最下位、23年からの変化量は1.6pt増でした。「若さが欲しい」が低い理由としては、2つの仮説が考えられます。ひとつは「国民全体の若さ」。フィリピンは国民の平均年齢が25歳と低いため(日本は48歳)*、老いについて考えたり悩むことが比較的少ないということ。もうひとつは、「高齢者を大切にする国民性」。フィリピンは親子3世代で暮らすことが多く、祖父母は孫の面倒をみたり、持っている知識や知恵を年下の人間に与える役割があるため、子どもや周囲の年下の人たちから、とても尊敬され、大切にされています。そのため「老い」へのネガティブさが他の国に比べて薄いのかもかもしれません。



*フィリピン統計庁(PSA)によると、2020年のフィリピンの平均年齢(中央値)は25.3歳。
<https://psa.gov.ph/content/age-and-sex-distribution-philippine-population-2020-census-population-and-housing>

若さが欲しい

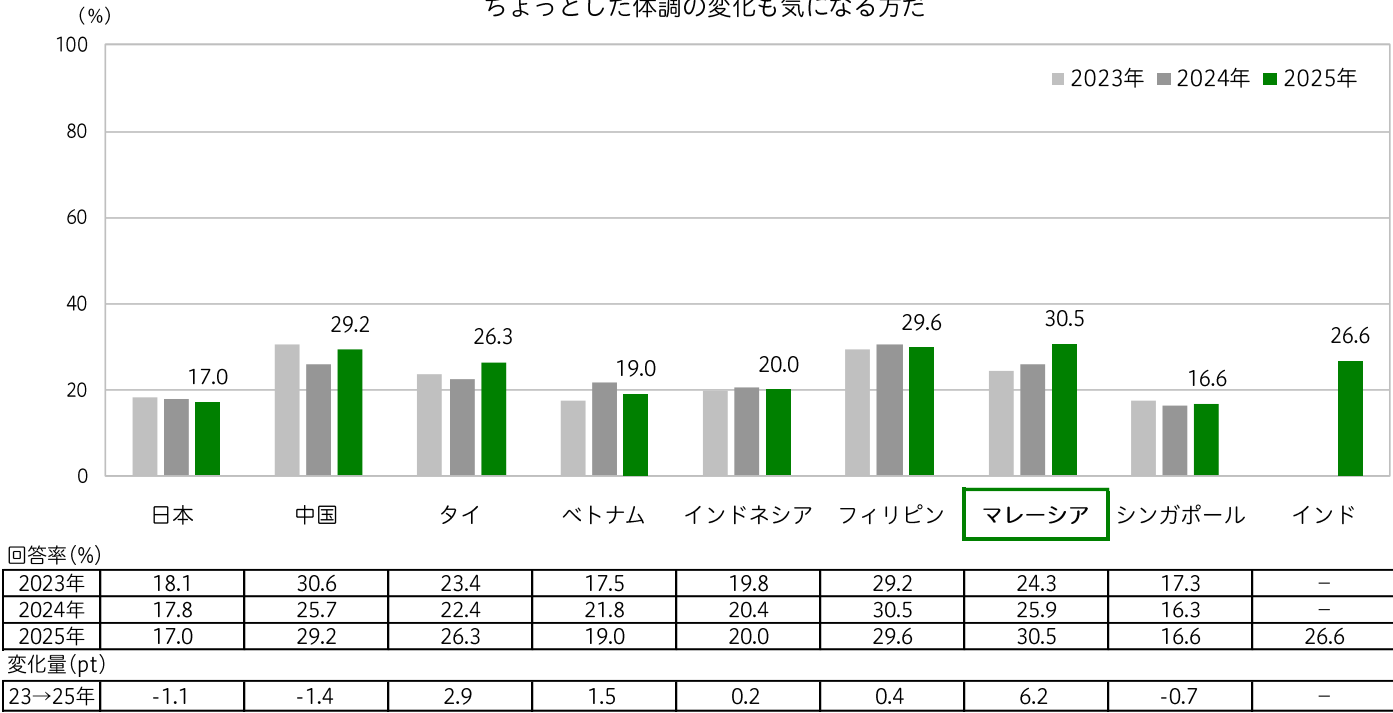


■ちょっとした体調の変化も気になる方だ

アセアンの研究員 マレーシアは30.5%で最上位、23年からの変化量も6.2pt増で最大でした。自分の家族や民族の繁栄のため、自身を鼓舞し前進し続けるマレーシアの生活者。そのための大事な資本は「健康的な身体」であることが、この調査結果からもわかります。マレーシアで家庭訪問調査に行くと、サプリメントなどの健康食品や、エクササイズ器具が部屋のなかにあるご家庭が多いことも印象的です。



ちょっとした体調の変化も気になる方だ

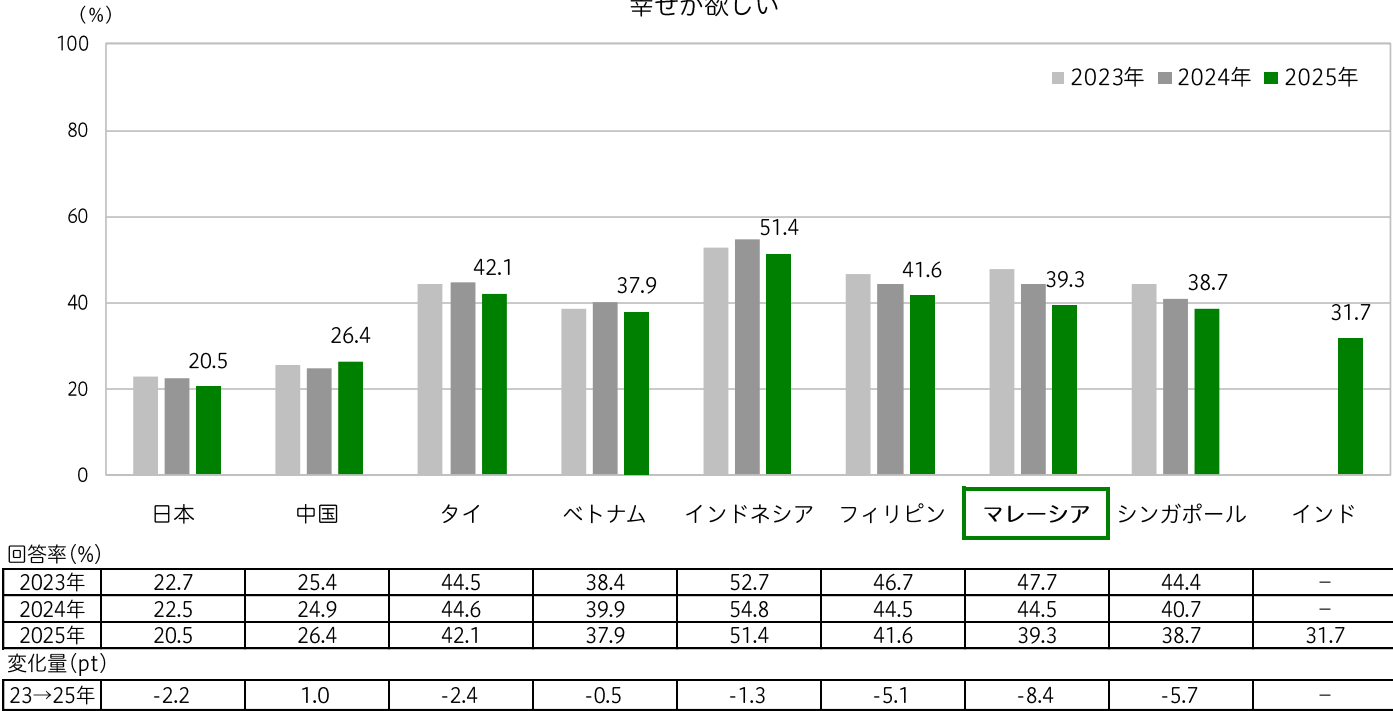


■幸せが欲しい

アセアンの研究員 マレーシアは39.3%で4位、23年からの変化量は8.4pt減で減少幅は最大でした。マレーシアの生活者は信仰を重視し、家族をととても大切にしているので、「幸せ」のスコアが減少傾向にあることや、その減少幅の大きさには驚きました。マレーシアの生活者の「欲しいもの」トップ3をみると、「お金」「健康」「幸せ」の順なのですが、「幸せ」のスコアだけが減少しています。それ以外にスコアが上昇した項目をみると、「安定した暮らし」「愛」「夢」が挙げられます。「幸せ」になるためには、まずは金銭的、身体的な安定感を手に入れることが先決だという気持ちが、こうした調査結果に表れているのかもしれません。



幸せが欲しい

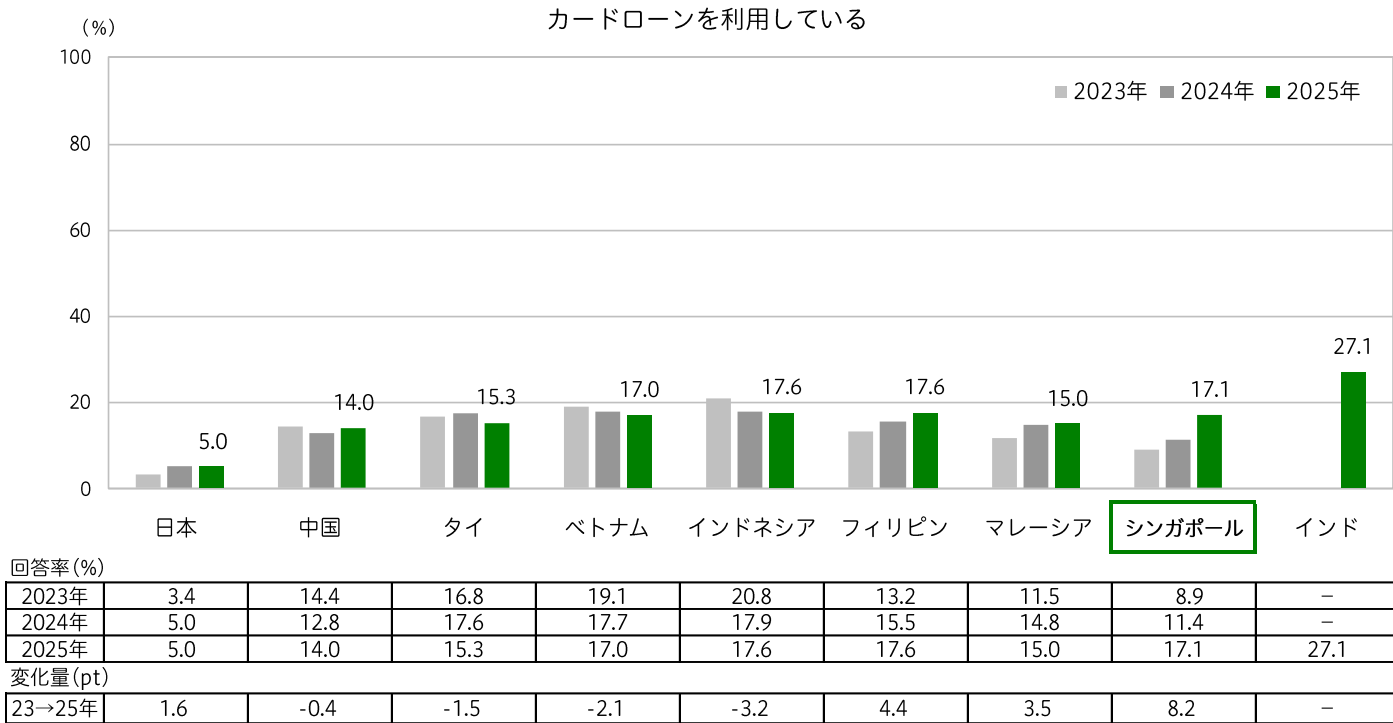


■カードローンを利用している

アセアンの研究員
のコメント



シンガポールは17.1%で4位、23年からの変化量は8.2pt増で最大。また、「今後、貯金にお金をかけたい」は46.2%で23年から7.8pt減でした。シンガポールは元々、生活費が高い上に、最近の世界情勢の影響などから、さらに物価が上昇しているからかもしれません。また、他の仮説として、「老後の心配が少ない」という点が挙げられます。シンガポールはCPF (Central Provident Fund) という強制積立制度があり、65歳になるとその積み立てが年金のように毎月支給されます。老後は自身の退職金と年金で十分な暮らしが出来る人が多いため、貯金より「今の自分のためにお金を使おう」という気持ちがあるのかもしれません。

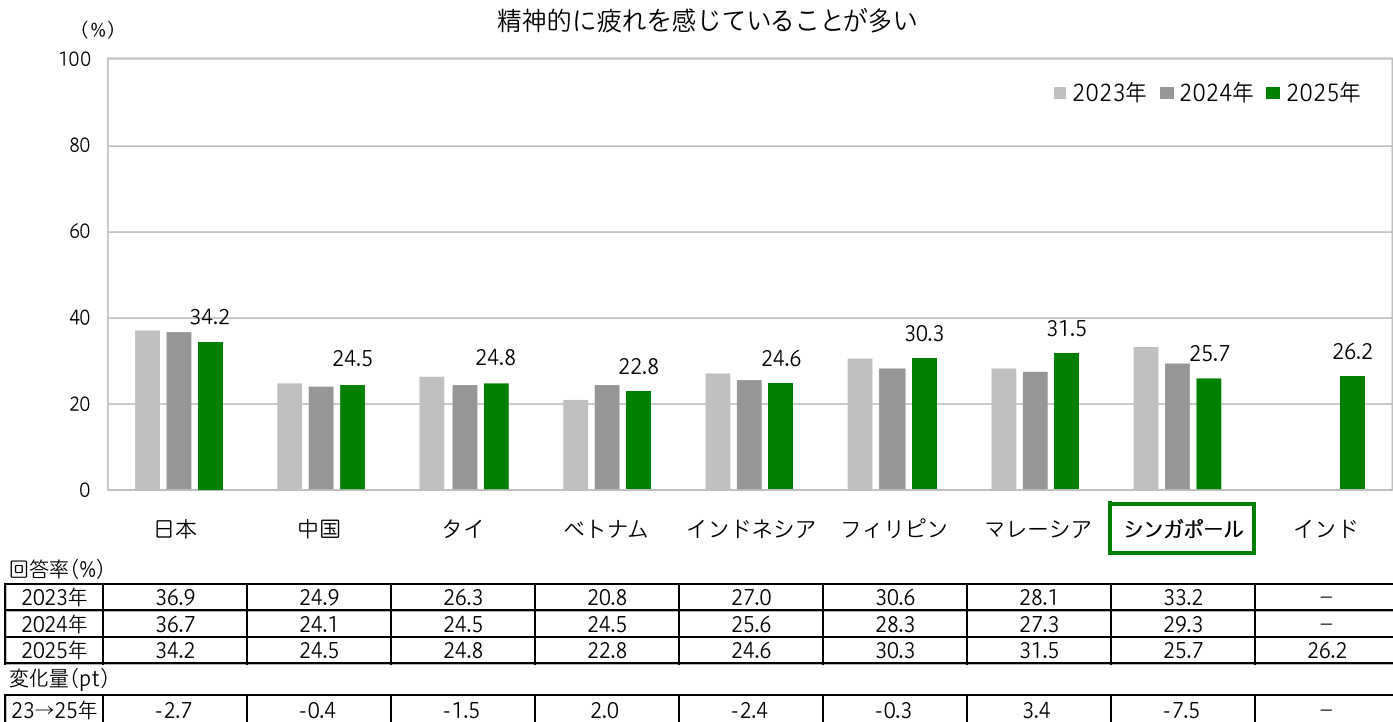


■精神的に疲れを感じていることが多い

アセアンの研究員
のコメント



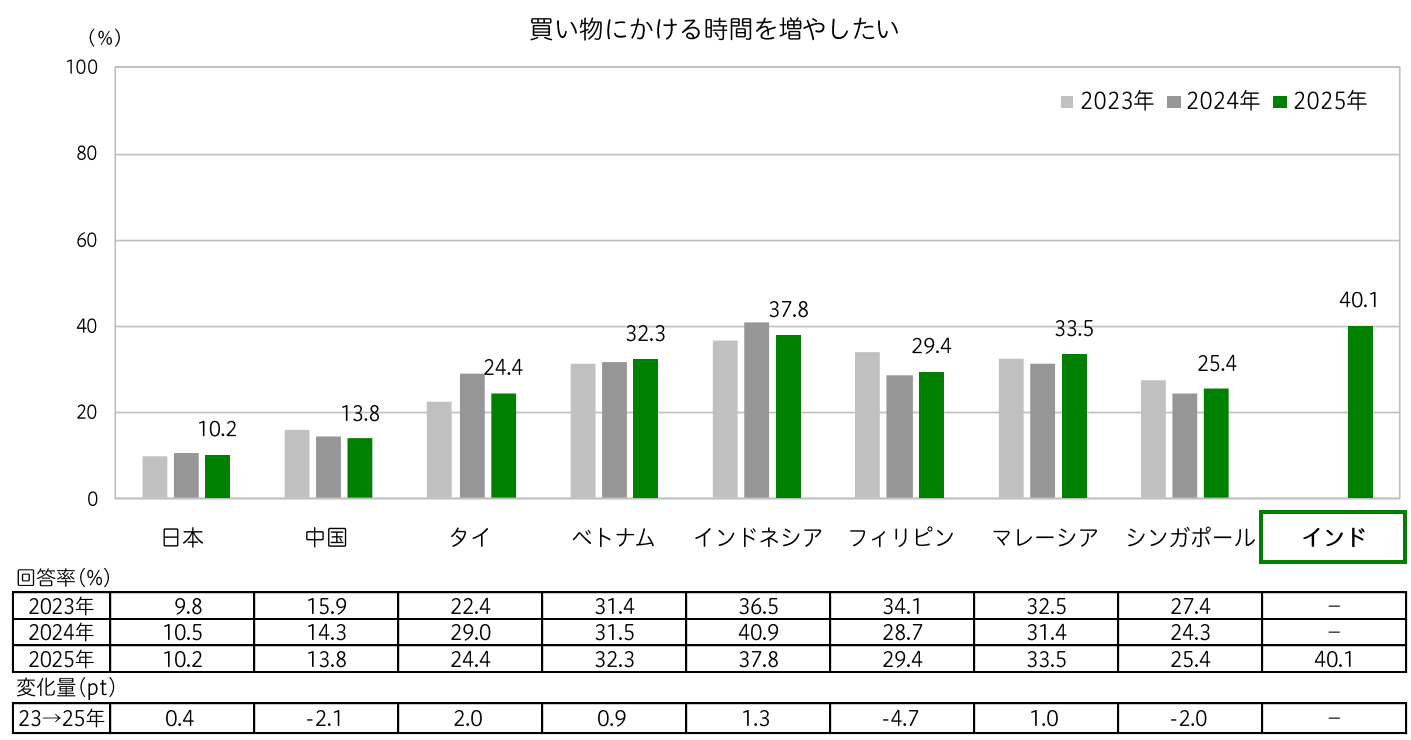
シンガポールは25.7%で5位、23年からの変化量は7.5pt減で最大でした。常にトップを目指すことや、「勝つ」ことが求められ、“Kiasu”（「損したくない、出遅れたくない」という心理から、何事にも積極的に先を争う態度のこと）という気質があるシンガポールの生活者。そのため、これらのストレス関連のスコアが減少傾向にあることに驚きました。コロナ禍を経て、働き方が柔軟になったことや、政府・企業のストレス・メンタルケアに関する啓蒙や対策が広がっていること、生活者のなかで「ワークライフバランス」や「メンタルヘルス」に対する意識が高まっていることが理由としてあげられるのではないかと考えます。



■買い物にける時間を増やしたい

インドの研究者のコメント

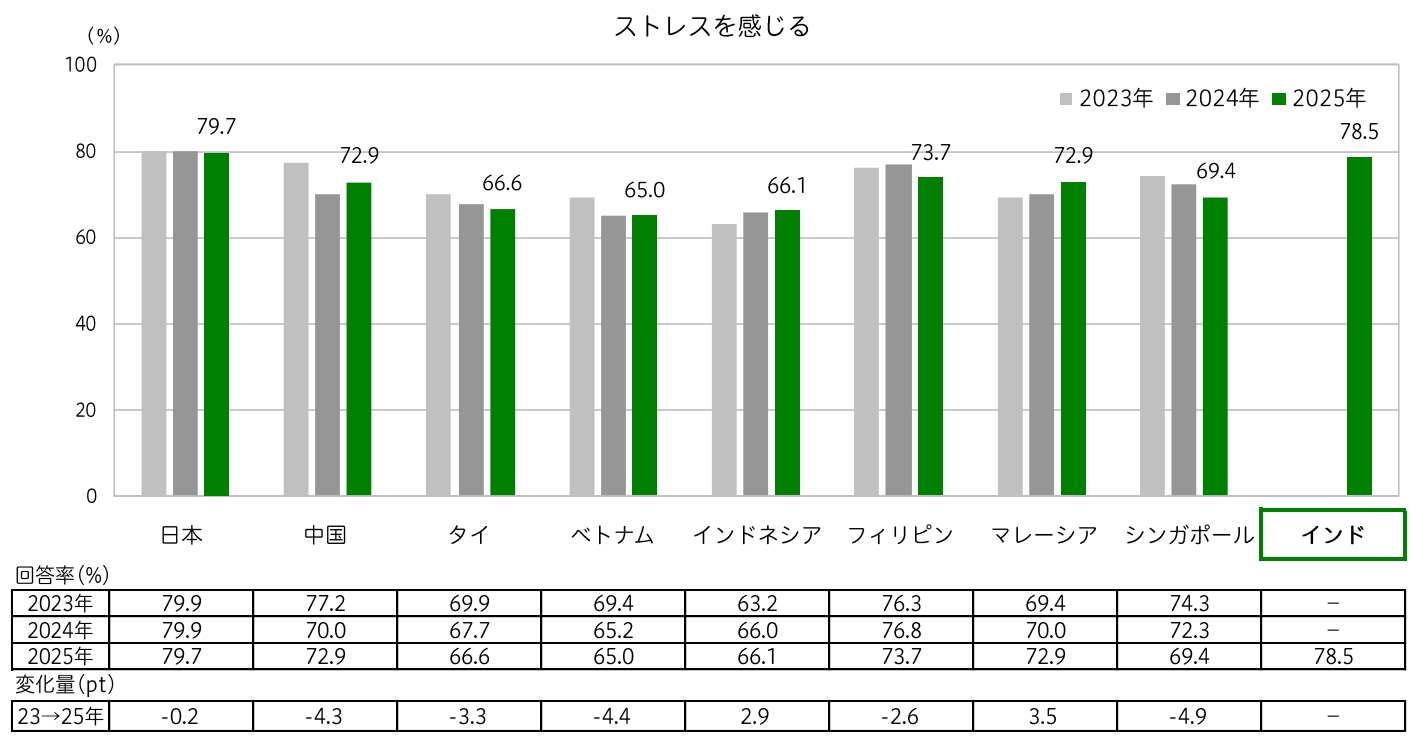
インドは40.1%で最上位、近年の著しい経済発展を背景に、新興国特有の物質的な豊かさを求める傾向が出ています。世帯所得が将来的に増え続ける期待感の高いインドでは、車やバイク、スマホなどの生活インフラを満たす高額商品を買うときにローンを組んで買うことへの心理的ハードルの低さもあり、自分の収入で買える物よりも少し背伸びをした買い物ができるので、購買意欲が増していると考えられます。



■ストレスを感じる

インドの研究者のコメント

インドは78.5%で2位。とはいえ、ストレス社会で知られる日本とあまり変わらないレベルでストレスを感じていることが興味深い結果となりました。インドの生活者は、楽観的で日々楽しく過ごしている印象がありますが、実は激的な受験・昇進などの競争社会、物価上昇などを抱えているがゆえに、ストレス度が他国と比べても高い水準にあることはインドの経済発展の裏にある課題といえるかもしれません。



「グローバル定点」とは

- ・博報堂生活総合研究所が日本で1992年より実施している「生活定点」調査の質問項目をベースに、消費・お金、情報、遊び、働き、健康、家族、恋愛・結婚など生活の幅広い領域から約480項目に及ぶ質問を投げかけ、各国の特徴を浮き彫りにするものです。
- ・今後、「グローバル定点」は毎年調査を実施し、時系列分析を行うことで各国の意識や価値観、行動の変化を追跡していきます。
- ・「グローバル定点」の調査結果は、本資料のような対外発表に加え、日本・中国・アセアン・インドにおける博報堂グループの各種マーケティング提案に役立ててまいります。

「グローバル定点」調査概要

調査地域 日本(首都圏・阪神圏)
中国(北京・上海・広州)
アセアン(タイ・ベトナム・インドネシア・フィリピン・マレーシア・シンガポール)
インド(デリー・ムンバイ・ベンガルール) ※インドは2025年からの調査開始

調査人数 13,000人(9カ国/14エリア)

調査対象 15歳～59歳の男女
(アセアン各国では世帯収入による絞り込み、インドではSECによる絞り込みを行っている)
(割付)

	日本		中国			タイ	ベトナム	インドネシア	フィリピン	マレーシア	シンガポール	インド		
	首都圏	阪神圏	北京	上海	広州							デリー	ムンバイ	ベンガルール
全体	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	668	666	666
男性	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	334	333	333
女性	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	334	333	333
15～19歳	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	74	74	74
20～29歳	222	222	222	222	222	222	222	222	222	222	222	148	148	148
30～39歳	224	224	224	224	224	224	224	224	224	224	224	148	148	148
40～49歳	224	224	224	224	224	224	224	224	224	224	224	148	148	148
50～59歳	220	220	220	220	220	220	220	220	220	220	220	150	148	148

調査期間 2025年1月6日～31日
2024年1月15日～31日
2023年1月10日～31日(参考値)
※中国は2024年に調査会社とパネルが変更されているため、2023年データは参考値であることにご留意ください

調査方法 インターネット調査

企画・分析 博報堂生活総合研究所

実施・集計 QO株式会社(旧 株式会社 H.M.マーケティングリサーチ)
Macromill China Insight, Inc.

調査協力 博報堂生活総研・上海、博報堂生活総合研究所アセアン

■博報堂生活総研・上海

Hakuhodo Institute of Life and Living Shanghai

博報堂生活総研・上海は、株式会社博報堂の独資子会社として2012年に上海に設立された、中国の博報堂グループのシンクタンクです。日本で蓄積してきた生活者研究のノウハウを生かし、中国における企業のマーケティング活動をサポートしていくと同時に、これからの中国の新しい暮らしのあり方を、中国現地で洞察・提言する活動を行っています。

現在の主要業務は、以下の通りです：

- ・生活者の本質的な欲求を洞察し、新しい暮らしのあり方を提言する「生活者“動”察」
- ・自動車、化粧品、食品など特定カテゴリーや若者、富裕層など特定の生活者を分析する「特定テーマ研究」
- ・生活者発想を基盤とした企業のマーケティング活動に対する「コンサルティング、提言」

<https://www.shenghuozhe.cn>

■博報堂生活総合研究所アセアン

Hakuhodo Institute of Life and Living ASEAN

2014年、アセアンの生活者を研究する企業内シンクタンクとして設立、2017年3月タイ現地法人化。アセアン生活者の洞察・提言を通し、アセアンにおける企業のマーケティング活動をサポートしています。

所在地：タイ・バンコク都

研究・活動内容：アセアン各国視点での調査・分析、アセアン各国でのフォーラム開催

生活総研アセアン Web サイトの特設ページにて、本調査結果の詳細と研究内容の解説および、今後のマーケティングへの示唆などをご紹介します。

<https://hillasean.com/>



Hakuhodo Institute of Life and Living
JAPAN / CHINA / ASEAN